

..... 企画展 .....

# 新収集品展

博物館を支えるコレクション&コレクター

令和3年 3月13日(土) ▶ 6月20日(日)

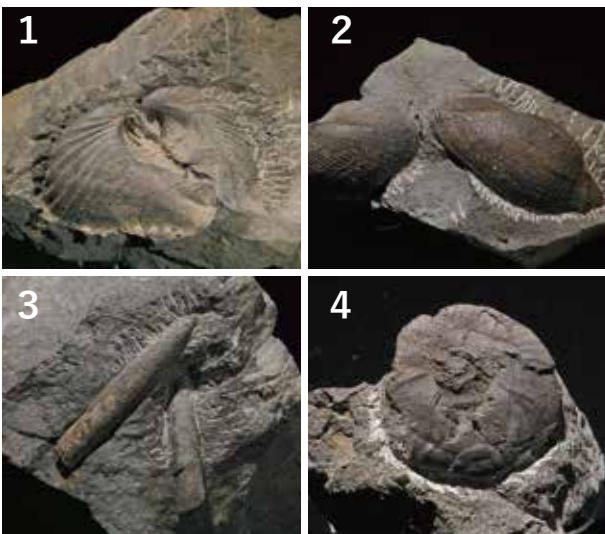
小林 まさ代

博物館では常に、資料の収集活動を行っています。当館では16万点を超える資料を収蔵しており、この5年間に、1万点を超える新たな資料を収集しました。展示、研究、教育普及といった博物館の活動のほとんどは、資料に基づいて行われており、資料の収集活動は、博物館の根幹をなす最も重要なものです。

本展示では、これらの新収集品の中から、選りすぐりのコレクションを展示します。また、これらのコレクションが集められた意義や、収集に関わった人々の標本に込められた思いなど、博物館を支える資料収集活動の背景について、その一端を紹介します。

**コレクションファイル1：矢嶋孝一コレクション**

矢嶋孝一氏は、熊谷市在住の化石コレクターです。「埼玉県内の全時代の化石をすべて収集する」ことを目標とした矢嶋コレクションは、軟体動物



矢嶋孝一コレクションより

- 1. プテロトリゴニア
- 2. ナノナビス
- 3. ベレムナイト
- 4. アンモナイト

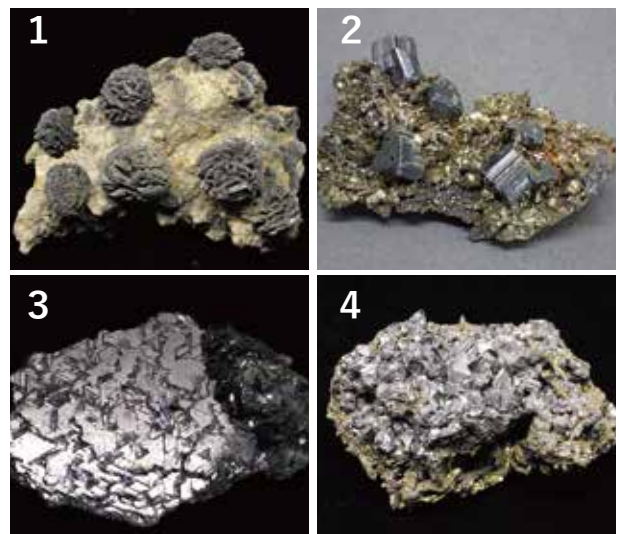
を中心に県内産の化石が網羅的に含まれています。丁寧にクリーニングされた上、産地情報もしっかりしており、研究資料としての価値も高いものです。これまで、しばしば展示や研究のために一部を提供いただいていたのですが、令和2年度に、数千点に及ぶ資料を一括して御寄贈いただきました。これらを一度に整理・登録することは難しいことから、まず、群馬県南西部から小鹿野町にかけて分布する白亜紀の地層（山中白亜系）から産出した、二枚貝やアンモナイトの化石を中心とする約1500点から作業にとりかかりました。貝化石を専門とする当館の学芸員を持ってしても、中には種の同定が難しい標本も出てきます。そこで、アンモナイト類の同定については東京学芸大学の松川正樹教授に協力を依頼しました。

本展示では、整理・同定の済んだ山中白亜系産の化石を展示します。矢嶋氏の収集にかける熱意を感じ、採集技術を知っていただければと思います。矢嶋コレクションには他にも、秩父盆地の軟体動物化石や秩父帯の石灰岩に含まれる化石などがあり、整理済みの山中白亜系化石の中にも研究を進めるべき標本もあります。今後も整理・研究作業が続きます。

**コレクションファイル2：**

**秩父鉾山産鉱物コレクション**

秩父鉾山は、埼玉県の北西部に位置する日本有数の鉄山です。金属鉾石はすでに終掘しています



秩父鉾山産鉱物コレクション

- 1. 輝安鉾の球状集合体
- 2. 車骨鉾（以上種市コレクション）
- 3. 方鉛鉾（品川コレクション）
- 4. 方鉛鉾（渡部コレクション）

が、鉄・金・銅・鉛・亜鉛といった多様な金属を産出しました。埼玉県産の 250 種の鉱物のうち 140 種以上を産出し、日本を代表する鉱物産地でもあることから、当館では秩父鉱山産鉱物コレクションを充実させるべく積極的に収集しています。

鉱山では一般的に、美しい鉱物は晶洞（鉱山用語ではガマ。鉱物が密集する鉱床の内部で、熱水の通り道に形成された割れ目や空間）内部に形成されます。鉱山の稼行時には大規模な晶洞が発見される機会が多く、立派な鉱物標本が多数得られました。採掘が停止した現在は、新たな、特に大規模な晶洞産物の採集は難しい状況です。

かつて鉱山で働いていた方の中には、鉱物の美しさに惹かれ、鉱石の一部を自宅に保管されていた方がいます。貴重な秩父鉱山産鉱物は、標本商を通せば商品として一般に流通します。にもかかわらず、「地元の宝は地元に残したい」という気持ちから、寄贈を御申出くださる方がいます。種市清禧氏、品川 正氏、渡部喜久治氏の秩父鉱山産鉱物コレクションは、いずれも地元のためにと残された標本で、鉱山稼行時でなければ採集不可能な、一級の鉱物標本が揃っています。

**コレクションファイル3：**

**埼玉県産ハエ目&カメムシ目コレクション  
(原コレクション/野澤コレクション)**

原 勝司氏は、長らく埼玉県の高校教員をされていた方です。数万点に及ぶ埼玉県産のハエ目標本を集中的に収集しており、退職後、標本整理を進めつつ定期的に博物館に御寄贈いただいています。

なぜハエを？という質問には、笑って「成り行き」と答える原氏。『埼玉県動物誌』（昭和 53 年発行）の執筆分担を決める集まりに顔を出した際に、書



原 勝司コレクション（一部）

写真はすべてキンバエの標本

き手のいなかった分類群を担当することになった巡り合わせといます。以来、荒川総合調査や各市町村史の執筆に携わりました。しかし、成り行きだけでは数万点の標本は収集できません。仕事の合間に採集に励み、朝 5 時まで標本作成に熱中する背景には、やはり昆虫が好きという熱量を感じました。

野澤雅美氏も埼玉県の高校教員として活躍されています。幼少の頃から昆虫が大好きで、以来ずっと昆虫採集を続けているとのこと。

野澤氏の専門は「ワックス」、秩父地方ではカメムシのことです。気が付けばカメムシの魅力に取りつかれ、50 年以上追いつけています。野澤氏は、標本の収集だけでなく研究活動にも力を入れており、埼玉県のカメムシ相の解明に力を注ぎながら、新種の発見やカメムシに関する論文や普及書籍の執筆もしています。また現在も外部研究者として博物館に通い、標本の整理と研究を続けています。

大きなコレクションを形成した方の中には、国立科学博物館等の全国規模の施設に寄贈を希望される方も少なくありません。しかし、両氏とも埼玉県にコレクションを残すことを選択されました。このような方々の好意によって、当館の収蔵資料を一層充実させていくことになります。

.....

その他にも、研究論文の証拠標本として登録された資料や、展示のために作成された「見せる」ための標本など、本展示で紹介する収集品は多岐にわたります。新収集品のお披露目を通して、博物館に関わる多くの人々の、資料収集に対する熱意を感じていただければ幸いです。

(こばやし まさよ・学芸員)



**野澤雅美コレクションより**

左からアカスジキンカメムシ、ツシマキノコカスミカメ、アシボトビイロサシガメ